



2024

# CREATIVE

17人の若者が語る、福祉のリアルな経験と心の声

# 未来モデル

営業職としてさまざまな企業で経験を積みました。ここに入職したのは7年前。いまは工場で就労移行支援の仕事をしています。

工場は企業活動の場。売上や生産性、品質が重視されます。しかし、この工場には「人間中心」という哲学があります。人の成長を重視しながら企業の要求を満たすことが目標です。できない仕事があるなら、その人ができるように生産設備を改良します。ひとつとして同じ障害はないため一人ひとりに対応します。そうした取り組みを繰り返していると、他では思いつかない製品や設備が生まれることもあります。こうした小さなイノベーションが毎日のように起きています。そして、利用者さんは仕事を通じてどんどん活躍し成長していく。障害があるからこそ、ユニークで異なる発想が生まれる。わたしたちの取り組みは、未来社会のモデルになっていくでしょう。

## 職業指導員

元営業職



大学・大学院で発達心理学を学び、専門性の高い支援や療育の取り組みに惹かれ、この職場に入職しました。入職後、公認心理師と臨床発達心理士の資格を取得しました。現在は心身の発達に特別な配慮を要する2歳から5歳の未就学児を対象に療育を行う児童発達支援施設で働いています。

集団でのルール理解や他者とのコミュニケーションが難しく、騒がしい環境や多人数の活動に不安を感じる子どもたちもいます。集団の中で孤立し、自分の行動パターンに逃げ込むことがあります。療育の目的は、それぞれの子どもの得意な部分を理解し、適切にサポートすることで、その子の力を伸ばすことです。わかることやできることが増えれば、“みんなと同じ”とはいかなくても、社会の中で生きやすくなるはず。この仕事は子どもたちと毎日密接に関わることで、一人ひとりの成長を実感できるものです。歩みはゆっくりでも、彼らはそれぞれのペースで成長していきます。そんな子どもたちが卒園式で誇らしげに歩く姿を見ると自然と喜びが湧き上がり、その感動は言葉では表しきれません。決して楽な仕事ではありませんが、毎日が心満たされる瞬間であふれています。

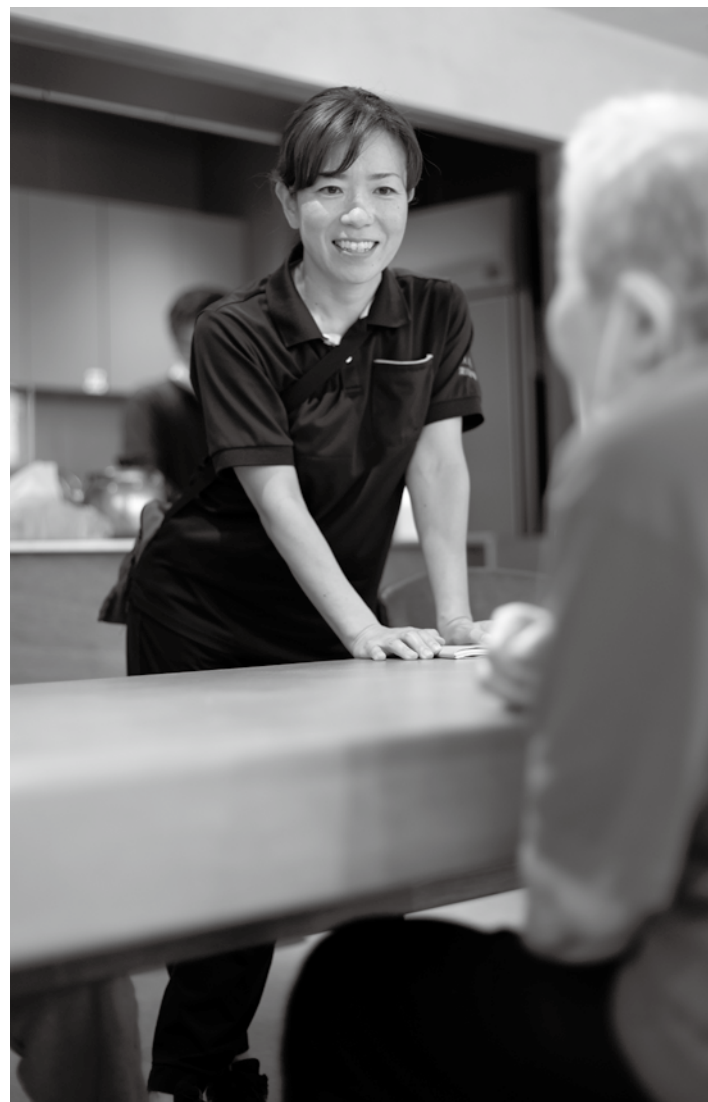
## 感動で 満たされる



公認心理師

新卒

## 寄り添う その先



きっかけは、高校生の時に参加した高齢者施設でのボランティア体験です。職員と利用者さんとのやり取りを見て、この仕事を「やってみたい」と強く感じました。デイサービスで働き始めて10年以上。今では、ボランティアの学生を受け入れる側になりました。福祉の仕事を知らない学生たちが、最後には「楽しかった」と笑顔を向けてくれると、うれしさに包まれます。

利用者さんと過ごす毎日は「ありがとう」という言葉をたくさんいただく日々です。一方で、施設に来てすぐに「帰りたい」と言う利用者さんもいます。自分自身、歳を重ねて、利用者さんの気持ちがよくわかるようになりました。ネガティブな言葉の裏にあるのは、不安な心。そんな時こそ寄り添い話を聞くことが大切です。寄り添ったその先の、人生の大先輩の言葉には、意味と力強さ、そしてやさしさがあります。福祉は、捨てたものじゃないよ。

## 生活相談員

元訪問介護ヘルパー

## 職業指導員

元製造職

## 成長を 信じる



いろんな製造現場でいろんな人と働いてきました。いまは職業指導員として働いています。わたしには忘れられない人がいます。やんちゃな18歳の彼は、普通高校を卒業したばかりで知的障害の傾向が強い子でした。最初は挨拶もまともにできず、周囲とぶつかり傷つくことも多くありました。でも不思議とわたしとは馬が合いました。ある日「これからはちゃんと就職したいからがんばる」と彼は強い目で言うのです。その気持ちを途切れさせてはいけなと思い、わたしは伴走することを決意しました。それ以来彼は、自分に向き合って行動するようになりました。与えた課題を次々とこなし、人が変わったように成長していく。彼の姿を見守りながら、わたしの毎日も輝き始めました。製造現場での仕事経験を活かし職業指導員として人の成長と自立を支えること。この仕事の本当の楽しさを味わいました。「この仕事がやりたかったんだ」18歳の彼が気づかせてくれました。

大好きだった先生のようにわたしもなりたい。ずっと思い続けて念願の保育士になりました。しかし、現実とは想像とは違いました。話を聞き入れない子どもたち。大きな声を出しても言い方を変えても、だめ。憧れた先生や先輩保育士のようにうまくいかない。自分は保育士失格なのかも。転職を考えるほど、悩む日々が続きました。「子どもたちはあなたの反応を楽しんでるのかもね。子どもはよく見てるのよ」先輩が何気なく言ったのです。その言葉にはっとしました。試しに子どもたちが騒いでいる時、わたしだけ静かにしてみると、子どもたちもしーん。わたしが変わると、子どもたちも変わる。自分の行動に子どもたちがどう反応するのかを知った時の衝撃は忘れられません。その後、注意しても暴れてしまっていた子が「先生と一緒にやってみよう」と言ってくれるまでになりました。「今日はどんな反応が返ってくるのだろう？」子どもたちの表情や行動が楽しみです。ちょっとの気づきが、実践につながる。やはり、保育はおもしろいです。

## 子どもは よく見ている

保育士

新卒





## 生活支援員

新卒

# やさしい時間

実習で訪れた障害者支援施設の雰囲気に魅了され、ここで働くことを決めました。日中は音楽や創作、ダンスなどの活動をサポートしています。思い出深いのは入職1年目のこと。その方は入所したばかりで、新しい環境に不安を感じていたのか、夜になると部屋に戻らず静かにソファに座り込んでいます。何をしても応えてくれない。それでもわたしは、地道に声をかけ続けました。そんな日々が2ヶ月ほど続き、徐々に心を開いてくれるようになりました。今ではすっかり信頼されるようになっています。わたしたちの仕事は決して派手なものではありません。でも、やさしい時間をつくることができます。一息ついたり、笑い合ったり、心をほんわかと通い合わせたり。穏やかで静かな時間を、利用者さんと共に過ごしています。

# たったひとつの言葉に

## 生活支援員

新卒

療育では、食事や健康管理を通じて身体機能の維持や健康を支えるだけでなく、感情面でのサポートや教育、さらには社会的スキルの習得まで生活全般にわたる支援を行います。最初は障害のある子どもたちの療育に関心があったのですが、子どもたちの将来に関連の深い成人施設も理解したいと思い、生活支援の現場で働いています。利用者さんとの信頼関係を築くには時間がかかることもあります。会話も少なく、心を閉ざし、他の人と接触することを避けていたある利用者さん。それでもわたしはあきらめずに、日々の小さな声かけや寄り添いを続けました。ある日、彼女が初めて小さな声でわたしの名前を呼んでくれたのです。何千回、何万回も呼ばれてきた名前。彼女のそのひと言に、胸がじんと熱くなったことは鮮明に覚えています。この仕事は、わたしにとってただの職場ではなく、人生の一部です。ひとつの言葉がくれた力を胸に、今日も前を向いて生活に寄り添います。





耳を **澄ます**

## 就労支援員

元会社員

誰にも相談できない時、心を開いて話せる相手がいることは大切ですね。心身に障害があり、就職活動をしている人ならなおさらです。わたしの仕事は障害のある人が就職先を見つけ、安定して働けるように支援することです。就職前そして就職後も関係は続きます。昨日もある卒業生が有給休暇をとって悩み相談に来てくれました。彼女は仕事が自分に合わないと感じて悩んでいたようです。わたしは、安心して相談できる居場所にするために相手のことをもっと知りたいという気持ちを大切にしています。話しやすい雰囲気をつくり、彼女の声に耳を傾けました。彼女は話すことで自分の気持ちを整理し、すっきりした表情で帰っていききました。就職することは決してゴールではありません。それは新たなスタートです。そこから生まれる悩みや課題は避けられません。わたしは卒業生にも、孤立せず前に進むことができるよう寄り添い続けます。彼らの声に耳を澄まして。



一緒に **笑**って **泣**いて

保育園の年長児が集まって行われる年長交流会。「リレーで優勝する！」クラスの子どもたちは毎日リレーの練習に一生懸命でした。しかし人一倍負けず嫌いだった子どもたちは、途中で抜かれると走るのをやめちゃう子や悔しくて泣き出してしまう子もいました。そのたびにわたしは励まし続けました。そして迎えた当日。「大丈夫、楽しんで！」とエール。スタートの合図が鳴ると、子どもたちは一斉に走り出します。わたしの心臓はバクバク。しかし驚くほど子どもたちは見事にバトンをつないで一着でゴール！その瞬間、わたしは胸に込み上げるものがありました。練習でうまくいかず悔しかった経験も、優勝をみんなで喜び合った瞬間も、子どもたちにとっては大切な宝物です。そんな場面に立ち会える。保育士は本当に素敵な職業だな。今日も、子どもたちからたくさんの元気をもらいながら、充実した日々を過ごしています。

## 保育士

新卒

# ゆっくりとした 時間



## 職業指導員

新卒

中学生の時に高齢者施設での職場体験で感じた印象は、わたしのその後の人生に大きな影響を与えました。何気ない朗らかな笑顔、さっぱりとした清潔な空間、静かな会話。「ゆっくり時間が流れる」感覚は今でも忘れられません。「人の心にゆったりと寄り添う仕事がしたい」と強く心に決めた瞬間でした。

大学の工学部を卒業後、精神保健福祉士の資格を取得し、現在の職場に入職しました。今年から職業指導員として、制御盤のソケットの生産ラインで、障害のある利用者さんの作業指導を担当しています。大切なのは人との関わりや感じ方。能力や障害の有無にかかわらず、一人ひとりの可能性を信じ、共に歩むこと。利用者さんとの関わりによって学び続けています。

休日は、幼い頃から続けてきた相撲を地元の子どもたちに教えています。対人スポーツの醍醐味もまた、お互いの違いを認め合い、共に学び合い、高め合うことです。子どもたちとの交流を通して、そうした学びを次の世代に伝えることができるのも大きな喜びです。ゆっくりとした時間との出会いは、わたしの人生をゆったりと豊かにしてくれています。

## 言語聴覚士

新卒



## プロだから

わたしは言語聴覚士として、発音や言葉の遅れ、<sup>きつめん</sup>吃音などを抱える2歳から5歳の子どもたちに対して療育を行っています。個別療育や集団療育を通して、少しずつ言葉を獲得し、コミュニケーションが取りやすくなるよう支援しています。特に、発音時の「舌」の動きに関連した発音障害の指導に重点を置いています。舌の位置が正しくないと発音が難しいため、ストローやティッシュなどを使って「舌を正しい位置に持ってくる」練習を行い、息の通り方や音の出し方を工夫しながら、少しずつ改善を図っていきます。舌の位置を指導する際には、理論に基づいた方法を子どもにわかりやすく伝えます。また、保護者へのサポートも欠かせません。発達段階に応じたアドバイスを提供し、家庭でも適切な支援ができるよう心がけています。自分が提供した支援が確かに効果をもたらし、子どもたちの生活や未来を少しでも明るくする。プロとしてこだわり続けていることです。



子育てひろば担当保育士

元会社員

# 育ち合いの場

「やってみたい」という気持ちが形になることは、大きな喜びです。子育てひろばの活動も、わたしの「やってみたい」という提案が受け入れられ、実現したものです。わたしが保育士として働く子育てひろばには、さまざまな瞬間が詰まっています。赤ちゃんが、好きな遊びに夢中になって「できた!」「やりきった!」という満足の表情を見せる瞬間。育休中のお母さんが、保育士資格を取ることにしたと聞いた瞬間。ワクワクとドキドキがあふれだす瞬間。

子育てひろばに初めて訪れる人たちは、悩みや不安な気持ちを持ってやってきます。特に初めての育児は、日々全てが悩みです。でも、乳幼児とその保護者が一緒に遊び、悩みをシェアするうちに前向きな気持ちになるものです。

ここは、子どもたちだけでなく、大人も一緒につながり、子どもの姿を見て学び、共に育ち合う場なのです。

理学療法士を目指したのは、以前、わたし自身が半月板を傷め、手術後に支えてくれたリハビリの先生に感謝した経験があったからです。同級生のほとんどは病院へ就職しましたが、わたしは福祉の道を選びました。自身の経験から、退院した後の生活で困っている人たちをサポートすることに、より魅力を感じたからです。専門学校ではパラスポーツの指導員資格を取得しました。その過程で、卓球やボッチャなどの競技を通じて、障害のある方に合わせたルールや道具の使い方を工夫していることを学びました。たとえば、握力がない方でも競技ができるようにランプという滑り台のような道具を使ってボールを転がす方法や、特別なグリップを使ってラケットを握りやすくする工夫があります。こうした工夫の数々から気づきを得て、障害があってもどうすればできるようになるかを日々考えるようになりました。ただマイナスを埋めるだけでなく、プラスにしていく。新しい可能性を引き出すために工夫し、試す。挑戦の連続が、この仕事の魅力です。

# 工夫し 試す

理学療法士

新卒





一人ひとりが  
「できた！」

## 児童支援員

新卒

集団生活の中で「できて当たり前」と思われることに、つまづいてしまう子どもたちがいます。そんな子どもたちにとって、学校は時に辛い場所になります。一方、家庭は子どもにとって唯一無二の甘えられる場所です。放課後等デイサービスは、学校と家庭の中間に位置する心の拠り所のような存在だと思っています。子どもたちが自立した日常生活を送るための支援を行い、保護者の負担も軽減します。食事や着替えトイレなどの日常生活の支援の他に、宿題のサポートや友達との交流を通じた社会スキルの向上、遊びや運動、創作活動などを行います。

わたしたちはここで、子どもたちが安心できる場所を提供し、一緒に小さな成功体験を積み重ねるサポートをしています。「できた！」という瞬間が増えることで、「自分もやればできるんだ」という自信が少しずつ育まれていきます。その子のペースに合わせ、焦らず寄り添い続けることが大切です。共に歩む小さな一歩一歩が、未来への大きな一歩につながると信じています。



## 学童指導員

新卒



全力で楽しむ

自分が楽しめば、子どもたちも楽しめる。この仕事は、夢中になって楽しんだ者勝ちです。

わたしは学童指導員として、無人島でのキャンプ体験や海外親子留学などの企画を担当しています。子どものころのかけがえのない経験が、将来やりたいことのヒントになると信じているからです。長く働くなかで、転職を考えたこともありました。でもあなたがいてくれてよかった」という保護者の一言に救われてきました。「必要とされる場所で働くことも大切なんだ」とその言葉に背中を押されました。子どもたちと一緒に全力で楽しんだり、泣いたり怒ったりする毎日は、忙しくて振り返る暇もないほどです。でも、学童を卒業した子どもたちが中高生、大人になって遊びに来てくれる時、この場所はやはり特別な場所なのだ実感します。

だからこそ、子どもたちに伝えたい。わくわくが、未来をつくる。楽しむなら、全力だ。

## 保育士

新卒



## 育ての 専門家

わたしたち保育士は、子どもの小さな変化に敏感に気づき、それに対応します。たとえば、転んだ時に反射的に手を出せない子どもが増えており、これは赤ちゃんの頃に十分にハイハイをしなかったことが原因かもしれません。また、動画を見すぎている子どもは、虚ろな表情をしています。わたしたちは、こうした変化を見逃しません。保育士の専門性は、こうした日常的な観察や適切な言葉かけに加え、発達心理学や子どもの成長段階に対する知識、個々の子どもの特性に応じた柔軟な対応力にあります。また、保育士は保護者の育児に対する悩みに寄り添い、保育園での成功事例を共有することで、家庭での育児にも役立つようサポートします。

子どもたちの「育ち」が不安定になりがちな現代社会。日々専門性を高めながら、子どもたちが安心して健やかに育つ環境を整え、「育ての専門家」としてその使命を果たし、子どもたちの未来を広げる役割を担っています。

入社1年目はとても濃い時間を過ごしました。大学で観光を学び、同級生がホテルや公務員を就職先として選ぶ中、福祉の知識ゼロのまま生活支援の仕事に飛び込みました。誰かの役に立つ仕事をしたいと思ったからです。しかし最初はうまくいきませんでした。「ア」としか発語できない言語障害のある利用者さんを前にして戸惑い、相手の気持ちをどう汲み取るのか悩みました。わずかな手応えを頼りに、ゆっくりとコミュニケーションの取り方を模索していました。

そんな中、一緒に参加したスポーツイベントが大きな転機となりました。障害のある利用者さんと職員と一緒に参加するレクリエーションでは、みんなが真剣に競技に取り組みました。わたしもその利用者さんと同じチームになり、一緒に笑い合いながら競技に熱中しました。「共に楽しむ」経験によって、心のつながりが生まれ、お互いの気持ちを自然に共有できるようになりました。「共に過ごした体験は言葉を超える」わたしが入社1年目に得たかけがえのない学びです。

## 言葉を 超える



## 生活支援員

新卒

# H.C.R.2024



第51回国際福祉機器展 & フォーラム

<https://hcr.or.jp/>

ふくしの魅力発見ゾーン CREATIVE

## 【発行】

一般財団法人 保健福祉広報協会

<https://hcrjapan.org/>

2024年10月2日

## 【制作】

株式会社インターコミュニティ

## 【協力】

社会福祉法人 太陽の家

社会福祉法人 正夢の会

社会福祉法人 山ゆり会

社会福祉法人 聖救主福祉会 / NPO法人 地域で育つ元気な子

非売品

無断転載・複製・複写・Web上の掲載は禁止です。